

新しい時代の生涯学習センター等のあり方について

(答 申)

令和 7 年 2 月 14 日

名古屋市社会教育委員協議会

はじめに

名古屋市の生涯学習センターは、昭和 50 年から昭和 60 年にかけて市内 16 区に 1 館ずつ整備され、開館して 40 年程度が経過している。また、名古屋市女性会館は、「女性の学習・交流・情報の拠点」として、女性教育の振興を図ることを目的に昭和 53 年に建築され、平成 3 年には女性情報センターが増築された。

今日に至るまでの間、情報化の進展、ライフスタイルの多様化、地域のつながりの希薄化など、社会情勢はめまぐるしく変化している。それに伴い、人々の生涯学習の実践方法や、生涯学習センター及び女性会館（以下、「生涯学習センター等」という。）が果たすべき役割及び求められる機能も変化してきている。社会教育委員協議会（以下、「当協議会」という。）では、これまでも、平成以降下記提言等により、名古屋市の生涯学習について意見を述べてきた。

平成 2 年	社会教育行政におけるコミュニティ学習の推進について(提言)
平成 8 年	生涯学習推進と社会教育行政の課題(答申)
平成 10 年	子どもたちの健やかな成長と社会教育の役割(答申)
平成 11 年	新たな時代の潮流に対応した生涯学習の推進について(提言)
平成 15 年	名古屋市生涯学習推進センターのあり方について(提言)
平成 18 年	生涯学習センターにおける公・民の協働の在り方について (答申)
平成 22 年	新しい時代に対応した生涯学習について(提言)
平成 24 年	生涯学習センターの今後のあり方について(提言)
平成 27 年	生涯学習センターにおける指定管理者制度導入館の検証について

平成から令和へと元号が変わり、生涯学習センター等は、「生涯学習の振興」及び「市民の交流と地域活動の発展」並びに「女性教育の振興」という変わらぬ使命を果たしつつも、再び新しい時代の要請に即したあり方に変わっていく時期を迎えている。

この度、当協議会は、名古屋市教育委員会から「新しい時代の生涯学習センター等のあり方について」の諮問を受けた。当協議会における議論をもとに、新しい時代にふさわしい、新たな生涯学習センター等のあり方を提案したい。

目 次

はじめに

第1章 生涯学習センター等の現状…………… 1

- 1 築年数・諸室構成等
- 2 施設の利用状況
- 3 生涯学習センター等で展開する事業
- 4 管理・運営の状況
- 5 生涯学習センター等に対する市民の意識

第2章 生涯学習センター等の抱える課題…………… 6

- 1 生涯学習センター等の現状から見える課題
- 2 社会教育委員協議会での議論

第3章 新しい時代に求められる生涯学習センター等のあり方…………… 9

- 1 生涯学習センター等に必要な視点
- 2 類似施設での参考事例
- 3 新しい時代に求められる生涯学習センター等とは

第4章 「集い・交流・学び・教えあい」の実現に向けた提言…………… 11

- 1 誰もが使いやすい、ひらかれた身近な施設
- 2 親しみやすい施設
- 3 子ども目線の重視
- 4 つながり、交流の場としての展開
- 5 民間企業等の積極的な参入促進

第5章 まとめ…………… 16

資料編

第1章 生涯学習センター等の現状

1 築年数・諸室構成等

名古屋市内にある生涯学習センター16館及び女性会館の開館年及び諸室構成は、巻末資料1及び2のとおりである。

生涯学習センターには、集会室、和室、視聴覚室、美術室、料理室、体育室等が、女性会館には、会議室、研修室、集会室、和室、視聴覚室、生活科学研修室、文化活動室、多目的室、ホール等があり、市民の生涯学習や交流のための活動に、1時間あたり400円から1000円程度の料金を貸し出している。

また、各施設のロビーなどには、机椅子や飲料等の自動販売機が設置されており、歓談などに自由に利用することができる。あわせて、生涯学習や地域イベント等のチラシを配架するなど、生涯学習情報の提供拠点ともなっている。

2 施設の利用状況

令和5年度の1年間で、生涯学習センターは約110万人、女性会館は約21万人、合計で131万人余りの方に利用されている。

また、利用件数では、生涯学習センターは約7万4千件、女性会館は約1万4千件、合計約8万8千件の利用がある。

貸室の利用率で見ると、生涯学習センターは48.7%、女性会館は62.6%となっている。

(巻末資料3から6参照)

3 生涯学習センター等で展開する事業

生涯学習センター等では、施設の貸し出しのみならず、講座・講演会の開催、生涯学習情報の提供、生涯学習に関する相談等が行われている。

生涯学習センター主催の連続講座は「現代的課題」「なごや学」「親学・青少年育成」の3つの分野を軸に、女性会館主催の連続講座は「女性の生き方・エンパワーメント」「現代的課題」「社会参画」「子育て」の4本の柱をもとに実施されている。令和5年度は、生涯学習センターでは224講座、女性会館では16講座が行われ、合わせて4,200人余りが受講している。

なお、生涯学習センター等では、これら以外の公開講座や各種事業、利用者同士や地域との交流を促進する「まつり」も実施されている。

4 管理・運営の状況

市民サービスの向上及び利用者の増加や経費の削減を図ることを目的に、平成 26 年度から中村、熱田及び名東生涯学習センター並びに女性会館に指定管理者制度を導入し、平成 30 年 4 月から、すべての生涯学習センター等で指定管理者による管理が開始された。

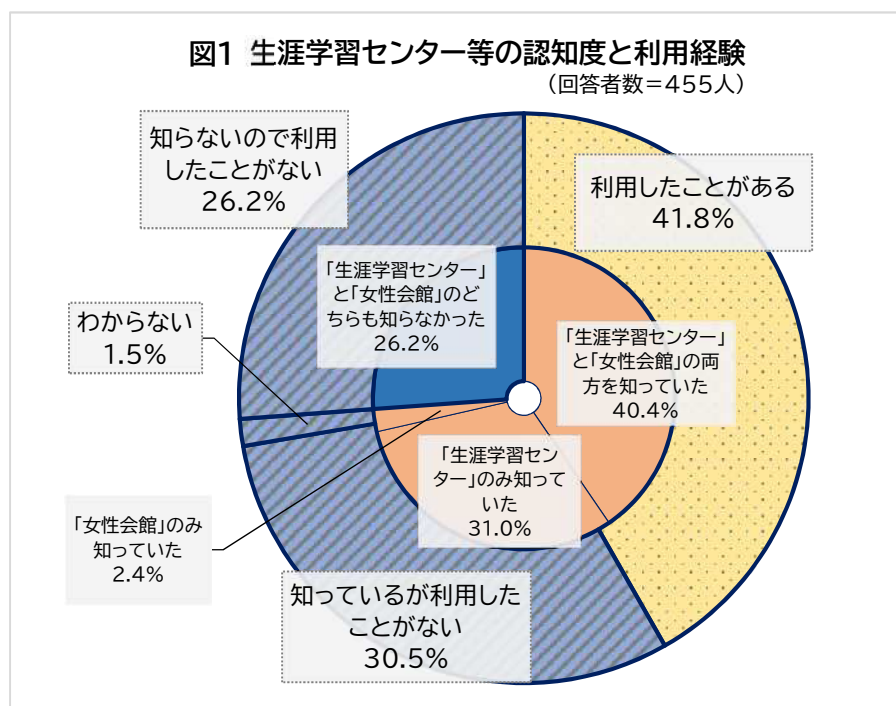
令和 6 年度においては、5 つの事業者が生涯学習センター等の管理・運営を行っており、規定上は休館日である日の自主的な開館や、民間事業者のノウハウを生かした自主事業の展開など、市直営の時代には実施が難しかった取り組みが行われている。

5 生涯学習センター等に対する市民の意識

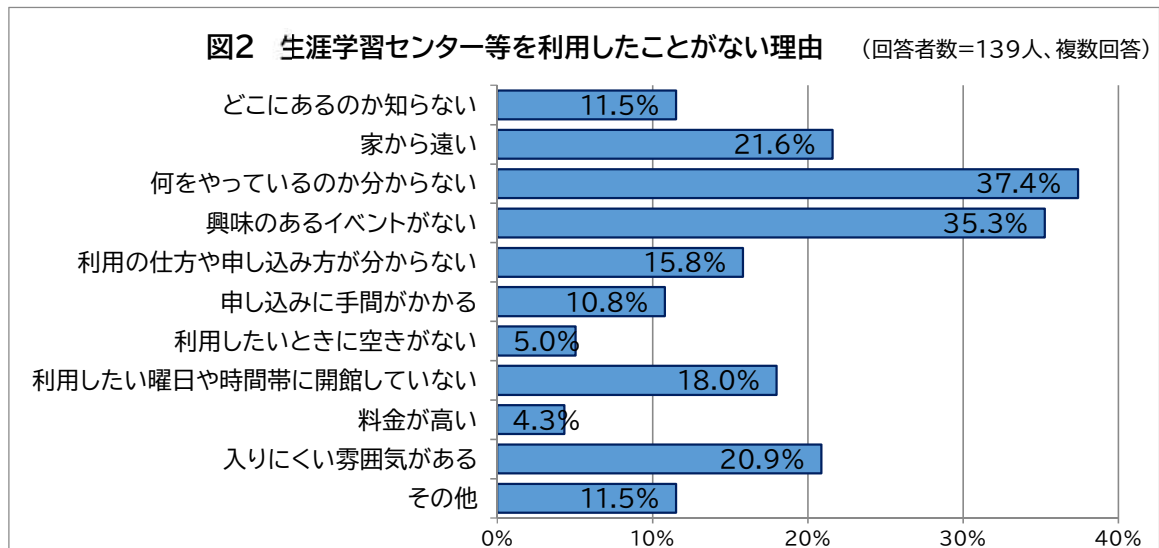
名古屋市が実施した、生涯学習センター及び女性会館についてのアンケートでは、次のような状況や意見があった。

(1) 一般市民の意識（巻末資料 7）

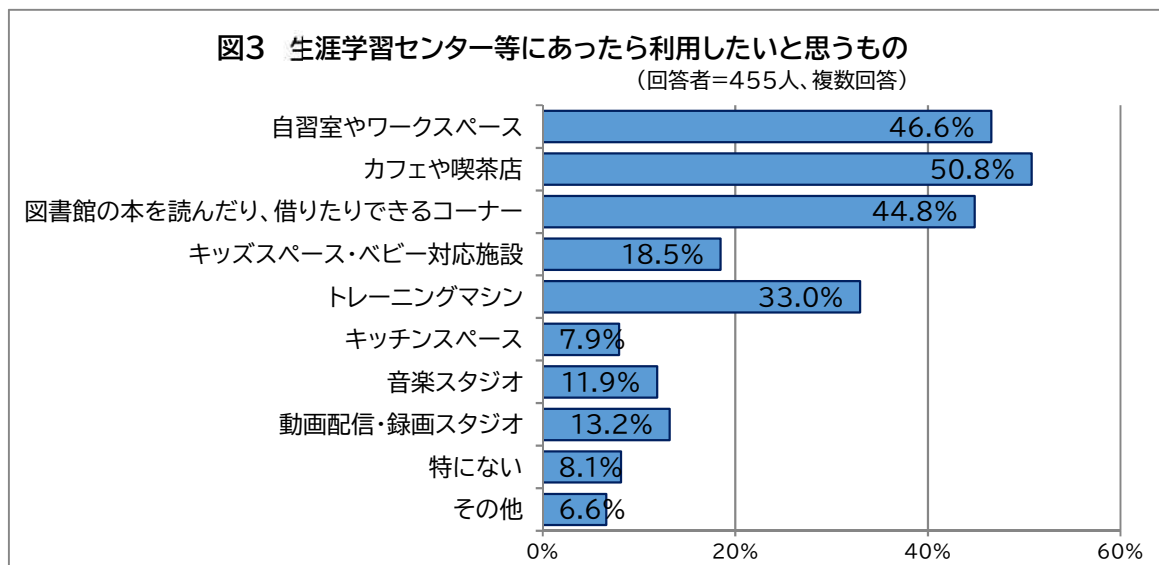
名古屋市スポーツ市民局広聴課が実施したネット・モニターアンケートによると、生涯学習センター等を知っていた人の割合は 73.8% (336 人) であった一方、生涯学習センター等を知っていた人のうち「利用したことがない」と答えた人が 41.4% (139 人) で、生涯学習センター等を知らなかった人 (26.2%) とあわせると、5 割以上の人を利用したことがないという結果であった。（巻末資料 7-1、7-2）



生涯学習センター等を利用したことがない人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「何をやっているのか分からない」と答えた人が37.4%(52人)と最も多く、次いで「興味のあるイベントがない」35.3%(49人)、「家から遠い」21.6%(30人)、「入りにくい雰囲気がある」20.9%(29人)という結果となった。(巻末資料7-3)

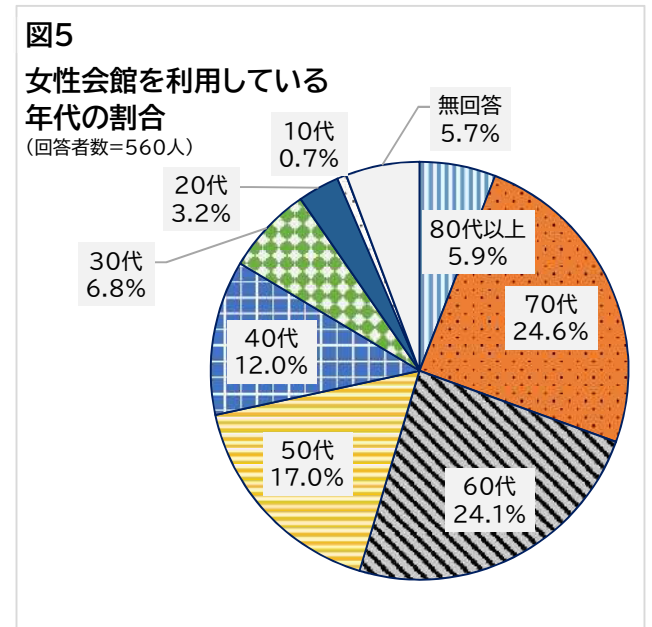
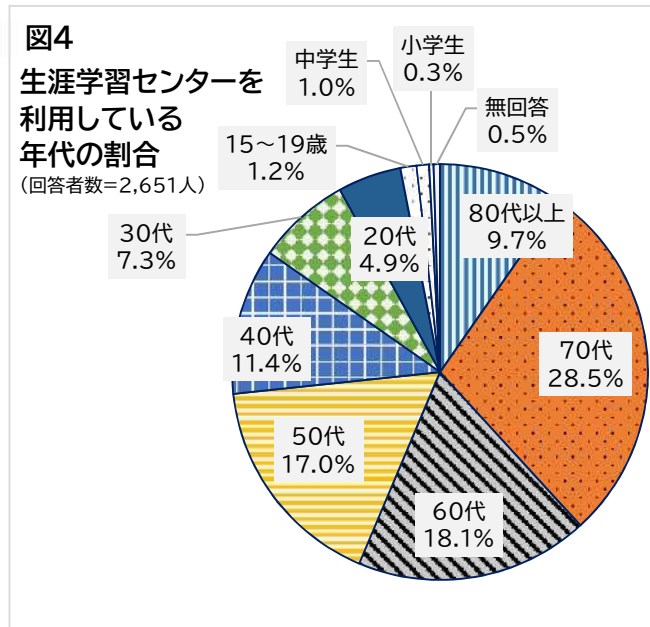


また、生涯学習センター等にあったら利用したいと思うものについて複数回答で尋ねたところ、「カフェや喫茶店」と答えた人が50.8%(231人)と最も多く、次いで「自習室やワークスペース」46.6%(212人)、「図書館の本を読んだり、借りたりできるコーナー」44.8%(204人)の順となった。(巻末資料7-4)

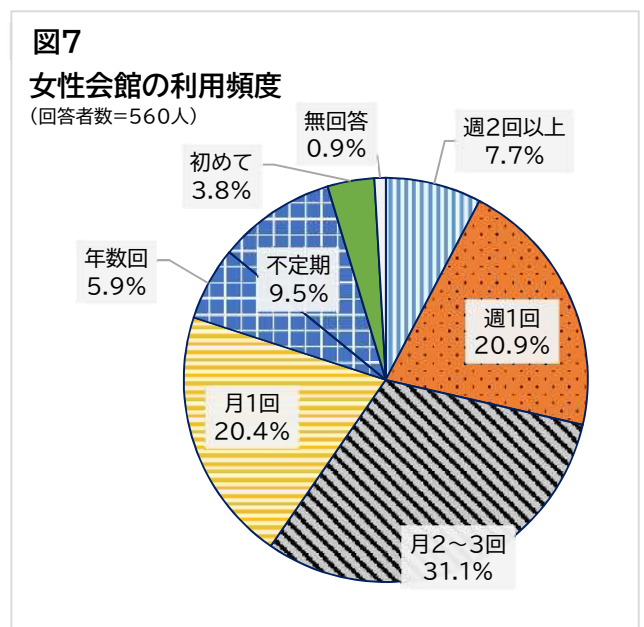
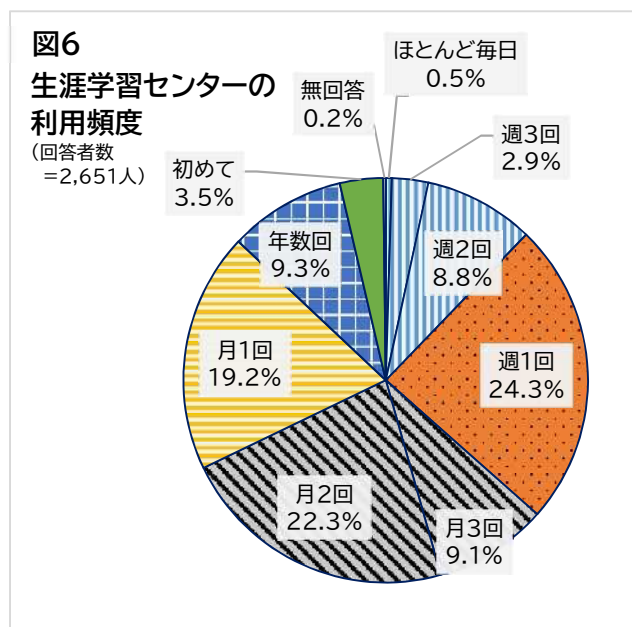


(2) 生涯学習センター等の利用者意識

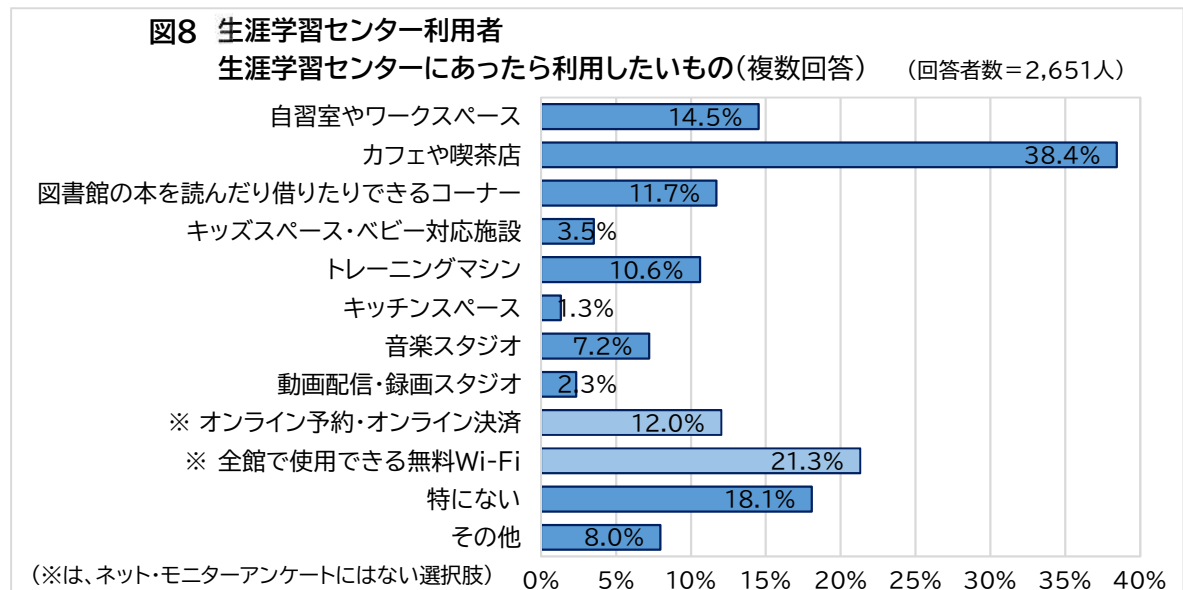
各施設の指定管理者が実施した生涯学習センター利用者アンケート及び女性会館利用者アンケートによると、回答者の年代は、下記グラフの通りであった。（巻末資料 8-1、9-1）



生涯学習センター及び女性会館の利用頻度を尋ねたところ、下記グラフの通りであった。（巻末資料 8-2、9-2）



現に生涯学習センターを利用している人に、生涯学習センター等にあつたら利用したいと思うものについて複数回答で尋ねたところ、「カフェや喫茶店」が最も多く、その点はネット・モニターアンケートと共通している一方、「自習室やワークスペース」「図書館の本を読んだり借りたりできるコーナー」と答えた人の割合は、ネット・モニターアンケートよりも低かった。また、「オンライン予約・オンライン決済」、「全館で利用できる無料Wi-Fi」も、施設利用者からの要望が多い。（巻末資料 8-4）



また、その他の意見として、次のようなものがあがっている。

- ① 多様な属性の人の利用促進
 - ・ 幅広い年代の利用
 - ・ 子どもが遊んだり交流できる場
- ② 利便性の向上
 - ・ 公共交通機関を利用する際のアクセス向上の要望
 - ・ 区役所や図書館など他の公共施設との隣接
 - ・ 休館日や日祝夜間の開館
- ③ 予約、申し込みの簡便化
 - ・ インターネットによる予約、オンライン決済
 - ・ 定期予約方式の導入
- ④ 環境の改善
 - ・ 体育室への空調の設置
 - ・ Wi-Fi（公衆無線 LAN）の設置
 - ・ 駐車場の充実
 - ・ 喫茶店の導入

第2章 生涯学習センター等の抱える課題

1 生涯学習センター等の現状から見える課題

第1章に示した現状などから、生涯学習センター等は次のような課題を抱えていることが明らかとなった。

① 認知度の低さ

「生涯学習センター」「女性会館」そのものを知らないだけでなく、知っていたとしても何をやっているのか、若しくは利用の仕方が分からない人がある。このことにより、新規の利用者が増えない状況がある。

② 電子化の遅れ

生涯学習センター等のような貸し施設を利用する際に一般的である、オンラインでの情報収集や予約申し込み、利用料決済に対応できていない。

また、電子媒体による施設や事業の広報が十分とは言えず、特に若年層への訴求力に欠ける。

③ 利用率の低さ

調理台や作業机などの特別な設備を備えた部屋や、少人数で使う場合には利用料が割高な部屋、公共交通機関を用いてのアクセスが不便である生涯学習センター等について、利用率が低い傾向にある。

このことは、利用料金収入の減少につながることはもちろん、市民の交流や地域活動の活性化が期待できない。(図9、10)

図9 生涯学習センターの部屋種別利用率(令和5年度)

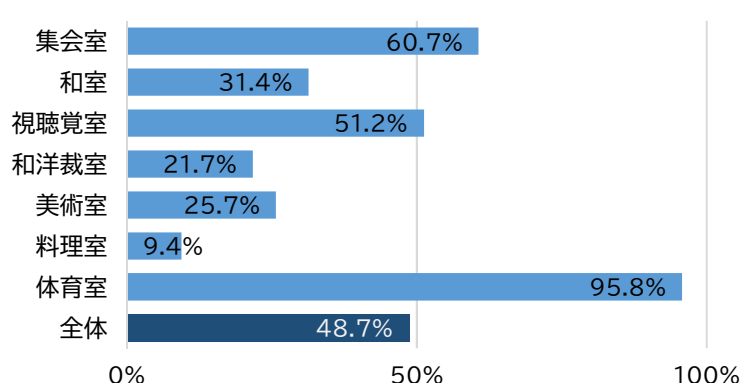
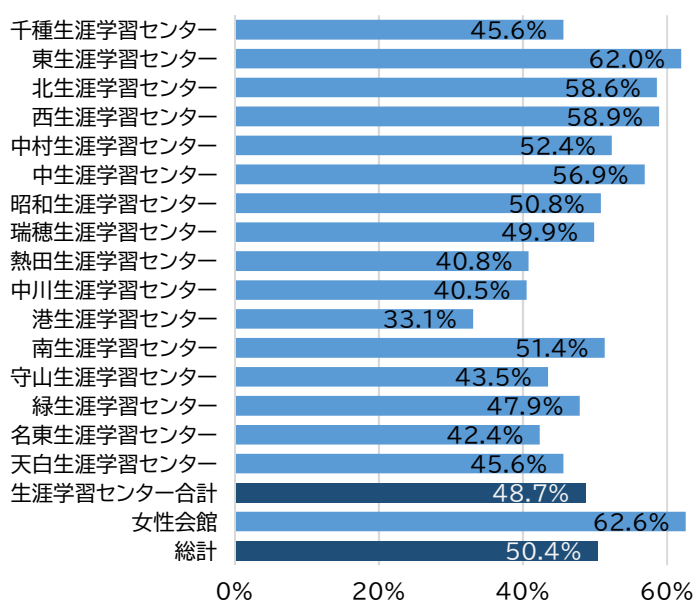


図10 館ごとの利用率(令和5年度)



④ 若者、子ども世代の利用者の少なさ

生涯学習センター等は、60 代以上の高齢層の利用が多く、子ども世代や 20 代から 30 代の利用はあまり多くない。

2 社会教育委員協議会での議論

当協議会では、第 1 章で示した現状について議論したほか、中村生涯学習センターを実際に視察した。その際、各委員からは以下のような意見が出された。

生涯学習センターは、外部に面する部分に開口部が少ない設計となっており、内部の様子をうかがいづらく、どのような活動が行われている施設であるのか分かりにくくなっている。そして、施設に入っても、施設の老朽化などの要因により照明も薄暗く、他の新しい施設と比較して閉鎖的な印象を与えている側面がある。

インターネット上で生涯学習センター等のウェブサイトアクセスした場合も、集会室や和室、体育室などがあることは分かるものの、どのような活動に用いることができるのかの例示はなく、利用者自身が望む活動を行えるかどうかはそれぞれの生涯学習センター等に電話で確認をしなければならない。電話での問い合わせは、若年層を中心に敬遠される傾向にあるほか、開館時間外では対応できないというデメリットを抱える。

さらには、施設利用や講座等の申し込み・決済がオンラインで完結しないという点も、生涯学習センター等の新規利用を阻害している可能性がある。

現に利用している者に目を向けてみると、利用者アンケートの結果によれば、60 代以上の利用者が全体の 56.3%を占めている。令和 5 年 4 月 1 日時点での名古屋市の 60 代以上人口の割合は 30.6%であることと比較しても、この年代の利用が他の年代に比して多いことがうかがえる。一方で、生涯学習センター等が建設された昭和 50 年から 60 年代に活動を開始した自主的な学習グループは、メンバーが高齢化したことで活動を続けられなくなるケースが見られている。さらには、コロナ禍で活動の自粛を迫られたことを機に、活動をやめてしまった例もある。

シニア層が学習などの活動を活発に行っていることは歓迎すべきことである。しかし、生涯学習センター等のこれからを見据えると、これからの地域社会の担い手となる若い年代の利用が少ないことは憂慮すべき点である。

一方で、1 時間当たり数百円から利用できること、民間の会議室等よりも空室を確保しやすいこと、繰り返して利用する利用者が多いことなどが、生涯学習センター等の強みとして挙げられた。

これらの課題に対して、施設・設備の改修や制度の改善、実施事業の工夫などによって解決していかなければならない。以上のような課題があることを改めて認識したうえで、第 3 章では、生涯学習センター等の全体像としてのあり方を述べる。

第3章 新しい時代に求められる生涯学習センター等のあり方

1 生涯学習センター等に必要な視点

当協議会では、諮問の内容に基づき、生涯学習センター等に求められる機能、果たすべき役割、期待される効果などについて議論を重ねた。それらを集約すると、次のような点が挙げられる。

① 誰もが使いやすい、ひらかれた身近な施設

性別や年齢、障害の有無、国籍等に関わらず、どのような人でも活用しやすい、使いやすい場とすることが、世代や属性を超えた交流や学習の輪を広げる出発点となる。また、利用申し込みに際してのハードルを下げることによって、より気軽に生涯学習センター等を利用してもらうことができるだろう。

② 親しみやすい施設

施設の老朽化に伴う薄暗い印象や、施設内の様子が外部からは分かりにくいこと、「生涯学習」という一般には想像しにくい用語を含んだ施設名称が、市民の生涯学習センター等の利用を敬遠させている傾向がうかがえる。これらを、多くの市民が立ち寄ってみたいくなるような、親しみやすいネーミングや見た目・雰囲気とする工夫が必要であろう。

③ 子ども目線の重視

現在の生涯学習センター等の利用者は、60代以上が5割以上を占める傾向にある。より多くの人に生涯学習センター等を利用いただくためには、子どもから生涯学習センター等に来館する経験を重ねることが重要である。幼いころから生涯学習センター等に親しんでいれば、中高生から青年期、また自らが子どもを育てるようになったときにも、生涯学習センター等を利用することにつながるだろう。

④ つながり、交流の場としての展開

かつて、住民相互の交流やつながりの促進は地域社会が担っていたが、その力は地域のつながりの希薄化によって薄れつつある。そのような中、多様な人々が集まり、活動する生涯学習センター等は、これまでも増して「地域づくりの拠点」として機能していくことが期待される。

また、学習やスポーツなどの明確な目的がなくても、「センターに行けば誰かがいる」、「センターに行けば何か楽しいことをやっついそうだ」、「とりあえず少し寄ってみよう」と思ってもらえる場とすることで、「つながり」を広げるきっかけとなるであろう。

⑤ 民間企業等の積極的な参入促進

市の公共施設として運用されてきた生涯学習センター等は、平成 30 年度に指定管理者制度の導入が全館に完了し、民間事業者の創意工夫が施設運営に反映されるようになり、自主的な取り組みが進められているところである。これにとどまらず、さらに柔軟に民間事業者のノウハウを取り入れることで、魅力的なイベントの運営やスペースの展開が可能となるであろう。

これは、利用者の利便性向上や誘客につながり、利用者相互の交流を促進する効果が期待されるほか、市の収入の増加にもつながるだろう。

2 類似施設での参考事例

当協議会では、生涯学習センター等のあり方について具体的なイメージを持つため、中村生涯学習センターの視察に加えて、名古屋市青少年交流プラザ（以下、当該施設の愛称である「ユースクエア」という。）を視察した。

ユースクエアは、人間性豊かで活力あふれる青少年の育成を図ることを目的として平成 19 年に開館した、34 歳までの青少年を対象とした施設である。施設内には、オープンスペース、活動室、ミーティングルーム、プレイルーム、音楽スタジオなどが備えられている。

なかでも、エントランスから直接つながるオープンスペースは、外部に面してガラス張りになっており、日光が降り注ぐ明るく開放的なスペースに、机椅子やソファ、靴を脱いで上がれるフリースペースが設けられている。ここでは、おしゃべりやゲームに興じる児童・生徒、幼児を連れた親子連れ、学習をする青年など、それぞれが思い思いに集まって活動しており、多くの青少年が交流している姿が見られたのが印象的であった。

図11 ユースクエアのオープンスペース



3 新しい時代に求められる生涯学習センター等とは

生涯学習センター等が抱える課題や求められる姿、類似施設の状況などをもとに考察を重ね、当協議会では、生涯学習センター等が目指すべき姿を「多様な人々が気軽に集い、交流し、学び、教えあう身近な場」として改めて位置づけたい。それを実現するために何が必要か、次章において具体的に述べていく。

第4章 「集い・交流・学び・教えあい」の実現に向けた提言

第3章で掲げた「多様な人々が気軽に集い、交流し、学び、教えあう身近な場」を生涯学習センター等で実現するため、どのような方策が効果的であるか、当協議会での議論を踏まえて述べる。

1 誰もが使いやすい、ひらかれた身近な施設

(1) 部屋・設備の集約化

生涯学習センター等には、どの館にもほぼ同規模の部屋があり、同じような設備が設けられている。これは、どの生涯学習センター等でも同じように利用できることを目的とした平等性を重視した設計であるが、裏返すと、自分が使いたい広さや設備でないときには選択肢がないということでもある。

そこで、館ごとに、同じ用途の部屋でも面積を変えたり、特色を持たせた附属設備を置いたりするなどの工夫が考えられる。例えば、会議や学習活動を行う集会室に関しては、少人数のグループでも使いやすい小さい部屋や、100人規模での会議にも対応できるような部屋、さらには可動式の間仕切りにより空間をフレキシブルに活用できるような部屋を設ければ、多様なニーズに応えることができるであろう。また、料理室や和室など、利用率の低い部屋は、特定の館に集約化して配置することも考えられる。それにより効率的なコスト配分が可能になり、例えば性能の高い器具を集中的に配置するなどの可能性も広がるであろう。

これらの配置を考える際には、特定の市域に特定の設備が偏らないよう、地理的な配置のバランスを考慮することが必要である。加えて、移動手段に制約があったり、遠くまで出かけることが難しい利用者への配慮も不可欠である。また、区ごとの特色や、周辺環境に合わせた特色を反映した生涯学習センター等とすることで、親しみやすさの向上に寄与するだろう。

(2) 施設利用申し込み等の電子化

上記の観点に基づいて整備された部屋を効率的に活用するためには、全館の設備の状況や空き状況を横断的に閲覧することができ、予約申し込み、さらには利用料金の支払いまでできるようなオンラインシステムの導入が有用である。現在の生涯学習センターは、施設利用に際して予約抽選の申し込みのみ電子申請が可能だが、抽選当選後の利用申請書の提出や利用料金の支払いのためには、事前に利用するセンターの開館時間中に足を運ばなければならない。また、空室情報はウェブサイトにおいて公開されているものの、同種の部屋の状況について全生涯学習センター等を横断的に確認することはできず、

そこから予約を行うこともできない。これらの障壁を解消し、時間や場所の制約を受けずに利用申し込みをすることができれば、利用者の利便性も向上し、利用率の向上にもつながるものと考えられる。

なお、女性会館には電子申込システムが導入されているが、利用料金の支払いは現地の窓口で行う必要があり、かつ他施設のシステムとの共通化も図られていない。

現在、生涯学習センターを利用するには原則事前申し込みが必要であるが、思い立った時に空室状況をタイムリーに確認でき、生涯学習センター等を利用できるようになれば、生涯学習センター等を利用してみたいと思う人を増やすことができるだろう。

2 親しみやすい施設

施設名称に含まれている「生涯学習」という言葉は、一般的には聞きなれない言葉であり、正しい意味が理解されにくい言葉でもある。そのため、障害のある方や高齢の方のみを対象とした施設であると誤解されたり、馴染みのない方から見ると「自分たちには関係のない施設」という印象を受けたりするなど、若い世代から興味を持たれないことがあるようだ。それを解消するために、どんな人でも幅広く利用できるひらかれた施設であることが分かりやすくなるような、生涯学習センターの愛称をつけることも一つの方法であろう。例えば、小中学生から愛称のアイデアを募るなどの取り組みを行うことで、生涯学習センターがどんな施設かを知り、生涯学習センターに愛着を持つきっかけとなるであろう。

なお、女性会館については、平成 26 年度から名古屋市男女平等参画推進センターが同じ建物内に移転してきたことを機に、これらを合わせた施設の愛称として「イーブルなごや」という名称を使用している。愛称の導入から 10 年ほどが経過し、多くの市民に浸透し、親しまれてきているところである。

また、生涯学習センター等の運営に利用者自身が参画することも、施設への愛着を育てる一助となるだろう。その場に子どもたちも参加し、その意見も反映させていくことで、世代間の交流も促進され、子どもたちの意見表明、社会参画の場ともなる。

あわせて、ふらっと立ち寄り、通いたくなる、そんな生涯学習センター等の環境整備や、魅力的な事業の実施及びその情報発信も重要である。若者が好むような洗練されたデザインの空間を作ったり、居心地のよいソファ等を設けたりすることで、もう一度来たい、ずっといたいと思わせるような仕掛けを提供できるとよい。この場合、必ずしも大掛かりな模様替えをしなくても、工夫次第で親しみやすい空間を作ることも可能だろう。

3 子ども目線の重視

生涯学習センター等はどの世代にも開かれた施設であり、子ども、親子、子育て世代向けの事業も展開している。しかし、現状では、生涯学習センター等は子どもが遊びを含めた体験や交流をしたり、学習したりできる場所でもあるということはあまり認知されていない。その一因は、申し込みをしなくても使えるフリースペースが少なく、子どもや親子が自由に来館して利用することが難しいことにあるだろう。

そのような中で、利用申し込みのない貸室を、中高生向けの自習スペースとして開放する取り組みを既に行っているセンターがある。落ち着いた学習空間を提供することで、児童・生徒・学生の利用を促せば、生涯学習センター等で展開される他の事業等への参加のきっかけとなることが期待される。また、自ら利用申し込みをすることが難しい子どもでも自由に遊ぶことができるスペースとして開放すれば、子どもが遊びを通じて学びや発見を経験していくことができ、ひいては生涯学習センター等に親しむきっかけにもつながるだろう。

また、様々な背景を持つ子どもたちが大人に見守られながら安心して過ごすことができる「子どもの居場所」としての機能を果たすことも期待される。家庭や学校ではない、様々な人が集う生涯学習センター等で、つながりあい、学び合うことが、子どもたちの成長につながるだろう。

さらに、子どもたちの放課後や休日の活動場所としての活用も考えられる。例えば、生涯学習センター等で活動する自主学習グループに講師となってもらい、児童・生徒が活動することができれば、グループにとっては日頃の活動成果を還元する場となり、児童・生徒にとっては有意義な放課後の時間を過ごすことにつながるだろう。

4 つながり、交流の場としての展開

生涯学習センターの設置目的には、「市民の交流と地域活動の発展に資する」ことが定められている。つまり、生涯学習センターは、そこに集う人々のつながりを広げ、地域コミュニティの基盤となることが求められている。その実現のために、次のような事業を展開することが考えられる。

(1) つながり、交流の促進

まず、生涯学習センター等が主催して行う事業等は、一定の頻度で行われるものが少なく、事前申し込みが必要なものもある。当日参加も可能なイベントを定例的に開催することにより、例えば「毎月1回特定の曜日に生涯学習センター等に行けば必ず何か楽しいことをやっているはずだ、だから出かけてみ

よう」というマインドを呼び起こすことができる。このイベントでは、世代間の交流を促すような内容や、利用者自身、特に子どもたちが企画するようなものを行うことで、利用者相互の交流を促進することにつながる。

一方、利用申し込み無しで自由に使うことができるスペースの設置も重要である。特に目的なく生涯学習センター等に訪れても、自由に歓談したり、本を読んだり、思い思いに時間を過ごすことができるスペースがあることで、そこが「たまり場」「居場所」となり、互いの顔が見えるつながりの場に育っていくだろう。

なお、「様々な世代の人々がふれあう、学びあう、つながりあう、新たな地域コミュニティの拠点」をコンセプトに、中生涯学習センターが、小学校、児童館、福祉会館と複合化した施設として令和 11 年に新たに開館する予定である。この施設には、子どもから大人まで幅広い世代が集い、交流が生まれることの本市における先駆例となり得るものとして、非常に大きな期待を抱いている。この複合施設が、新しい生涯学習センター等の姿をリードする存在となるよう、その活用策を検討していただきたい。

(2) 各区の交流拠点施設

生涯学習センターは、講座等の実施、自主学習グループなどの学習活動の支援、生涯学習情報の提供、生涯学習相談、施設の貸出などを行っている。これらは、生涯学習センター等が「リアルな場」として存在するからこそ果たせる役割であり、生涯学習センター等という拠点の重要性を示している。そして、徒歩や自転車で出かけることができる身近な場所に生涯学習センター等があり、気軽に活動できることは、地域に根差した生涯学習の拠点施設として必須の要件である。また、既存の地域団体はもちろんのこと、地域に密着して活動する NPO や各種団体が、その活動拠点として利用することを考慮すると、生涯学習センターはそれぞれの区に 1 館ずつ配置されていることが好ましい。

かつて生涯学習センターは、平成 12 年から、平成 30 年に指定管理者制度が導入されるまでの間、区役所の組織として位置づけられ、区ごとの特色を生かした活動の拠点となってきた。この区役所との連携は、地域コミュニティの活性化が求められる今、定例的な情報交換の場を設けることなどにより、一層強化されていくべきものである。各区の生涯学習センターは、そこに集う利用者のニーズやそれぞれの区の魅力が反映された、特色ある施設として運営されることが望ましい。

5 民間企業等の積極的な参入促進

指定管理者とは別に、施設の企画や運営に民間事業者が参入することも、生涯学習センター等の魅力向上につながるだろう。

生涯学習センター等の一部の敷地を民間事業者に貸し出し、カフェ・喫茶店として展開したり、スポーツジムを導入したりすれば、双方の利用者が互いの施設を利用するようになり、生涯学習センター等の認知度向上、連携事業の実施などの相乗効果が見込まれる。そのほか、クオリティの高いコーヒーやフルーツジュースを提供する高機能な自動販売機の導入、無人型コンビニエンスストアの設置、冷凍食品をその場で調理して食べられるようなスペースの設置なども、新しい形の民間事業者の導入手法として考えられる。

また、エントランスやロビーの環境改善に、ノウハウのある企業や店舗コンサルタントを活用することで、生涯学習センター等の従来のイメージを一新することができるかもしれない。さらに、企業のみならず、近隣大学の学部やゼミと共同で生涯学習センター等の運営改善について検討することにより、より地域に身近な施設として運営されていくことが期待される。

学習活動だけでなく、民間貸会議室のように会社等の会議に利用することも可能であることを周知することも必要だ。オンラインでの申し込み・決済が可能となれば、民間事業者も利用しやすくなるであろうし、会議室としての利用をきっかけとして、生涯学習センター等で行われている学習活動や交流活動に触れることにより、生涯学習センター等での活動に興味を持つことにつながるだろう。

さらに、美術室、料理室など利用が少ない部屋を会場として、多種多様な講座・教室を民間事業者等に開催してもらうことで、生涯学習センター等に足を運ぶきっかけを提供することも、新たな取り組みとして有用であろう。

第5章 まとめ

当協議会では、新しい時代に求められる生涯学習センター等の姿について、さまざまな角度から議論を重ねてきた。これらをまとめると、次のような観点となる。

- ① 効率的な施設の運用を図るとともに、利用者の利便性を向上させるために、部屋・設備の集約化を行い、それぞれの区の特性に応じて、区ごとに特徴を持たせた配置を行うこと。また、連携により相乗効果を期待できるような施設との複合化も検討の余地がある。

なお、これらの検討を行う際には、性別、年齢、障害の有無、国籍等を問わず、どのような立場の人であっても使いやすい施設・設備となるように配慮すること。

- ② 施設利用の申し込みや料金の支払いの電子化を推進し、利用者にとって使いやすい施設とすること。また、電子媒体による施設や事業の広報を進めること。

- ③ 1区に1館ずつ配置された身近な施設であることを活かし、さらに多くの市民が気軽に足を運ぶ、親しみやすい地域コミュニティの拠点となるべく、明るく居心地の良い、外装、内装、設備を整備すること。また、大規模な改修の時期を待つことなく、実施できることには順次取り組むこと。

あわせて、市民に愛される施設に育つよう、生涯学習センターの愛称などの導入を検討すること。

- ④ 施設整備や事業の企画にあたっては、子どもたちが自由に訪れ、遊び、学びあえるような「居場所」としての役割を果たすなど、子どもや親子が利用しやすい環境を整えること。

- ⑤ 利用者同士のつながり・交流の場となることを目指し、誰にでもひらかれた地域密着施設となるよう、魅力あるイベント・事業を実施すること。その際には、区役所などの近隣公共施設、各区を拠点として活動する地域団体、NPOなど各種団体、企業、大学、利用者などとの連携をさらに強化すること。

また、特定の目的がない利用者也訪れやすい場を提供することで、つながりのきっかけを提供できる施設とすること。

- ⑥ 民間事業者等の恒常的な出店や貸室を利用した教室等の開催、施設デザインへの共同参画などにより、官民間わず幅広い知識・ノウハウ等を活用した魅力的な事業を展開すること。

ここまで述べてきたような生涯学習センター等のあり方は、生涯学習センター等が、利用者同士が顔を合わせる「リアルな場」として存在するからこそ果たせる役割であり、生涯学習センター等という拠点が、物理的にも精神的にもアクセスしやすい存在でなければ実現できない。現在、各区に 1 つ配置されている生涯学習センター等は、これまでの利用者同士の学習や交流、地域活動の成果が積み重なった貴重な資源である。地域コミュニティの重要性が見直される今、生涯学習センター等がその拠点としての役割を果たしていかなければならない。

ここに示した「新しい時代の生涯学習センター等のあり方」は、「生涯学習の振興」及び「市民の交流と地域活動の発展」並びに「女性教育の振興」という理念を大切にしながらも、社会の変化や人々の生き方の多様化に応じて姿を変える生涯学習センター等のあり方を示すものである。生涯学習センター等が、市民の生涯を通じた学びを支え、「多様な人々が気軽に集い、交流し、学び、教えあう身近な場」となることで、生涯学習を通じて名古屋市民一人一人の人生が豊かになり、名古屋市が豊かで住みよい社会に育っていくだろう。今後も、時代や社会の要請、利用者や地域住民のニーズに応えられる生涯学習センター等であり続けるよう、引き続き魅力ある取り組みを重ねていってほしい。

資料編

資料1 生涯学習センター及び女性会館の築年数・面積等

館名	所在地	開館年 築年数	指定管理者 制度 導入年度	開館時間 (指定管理者自主開館を含む)	休館日	構造	延床面積 敷地面積
千種	千種区振甫町 3丁目34番地	1975(昭和50) 築49年	平成28	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2水曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,905.6㎡ 3,766.0㎡
東	東区葵一丁目 3番21号	1981(昭和56) 築43年	平成28	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,399.5㎡ 1,932.8㎡
北	北区黒川本通 2丁目16番地の3	1984(昭和59) 築60年	平成28	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2火曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造4階建、 地下1階	3,958.6㎡ 1,961.0㎡
西	西区浄心一丁目 1番45号	1985(昭和60) 築38年	平成28	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2水曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造4階建、 地下1階	2,391.4㎡ 874.5㎡
中村	中村区鳥居通3丁目 1番地の3	1985(昭和60) 築39年	平成26	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2水曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,560.5㎡ 2,683.5㎡
中	中区橋一丁目 7番11号	1982(昭和57) 築42年	平成28	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2火曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,372.3㎡ 2,061.6㎡
昭和	昭和区石仏町1丁目 48番地	1980(昭和55) 築44年	平成28	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2水曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,311.5㎡ 2,548.8㎡
瑞穂	瑞穂区惣作町2丁目 27番地の3	1982(昭和57) 築42年	平成28	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2火曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,397.5㎡ 2,942.6㎡
熱田	熱田区熱田西町 2番13号	1984(昭和59) 築40年	平成26	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2水曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造2階建	2,394.6㎡ 3,797.6㎡
中川	中川区富川町1丁目 2番地の12	1978(昭和53) 築46年	平成30	午前9時～午後9時	毎月第2水曜日、 年末年始	RC造3階建	2,074.2㎡ 2,057.9㎡
港	港区港陽一丁目 10番18号	1979(昭和54) 築45年	平成30	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2火曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,297.4㎡ 2,223.4㎡
南	南区東又兵衛町5丁目 1番地の10	1983(昭和58) 築41年	平成30	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2水曜日・第4月曜日、 年末年始	SRC造2階建	2,386.3㎡ 3,573.7㎡
守山	守山区守山三丁目 2番6号	1976(昭和51) 築48年	平成28	午前9時～午後9時	毎月第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,925.4㎡ 3,818.9㎡
緑	緑区鳴海町 字本町54番地	1977(昭和52) 築47年	平成30	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2火曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造3階建	2,094.7㎡ 2,330.1㎡
名東	名東区社が丘三丁目 802番地	1980(昭和55) 築44年	平成26	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2火曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造2階建	2,213.6㎡ 3,691.5㎡
天白	天白区天白町 大字島田 字黒石4050番地	1981(昭和56) 築43年	平成30	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第2火曜日・第4月曜日、 年末年始	RC造2階建	2,349.9㎡ 7,393.7㎡
女性 会館	中区大井町7番25号	1978(昭和53) 築45年	平成26	午前9時～午後9時 (日・祝は午前9時から午後5時)	毎月第3木曜日、 年末年始	RC造3階建、 地下1階	5,826.7㎡ 3,380.3㎡

※築年数は令和6年4月1日時点
※北生涯は1964(昭和39)年建築

資料2 生涯学習センター及び女性会館の部屋・設備一覧

1 生涯学習センター

(1) 部屋・設備一覧

(人数は部屋の定員)

	集会室							和室			視聴覚室	美術室	料理室	和洋裁室	体育室	ピアノ		陶芸窯	フクロウの部屋	駐車場
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第1	第2	第3						グランド	たて型			
千種	60人	30人	30人	30人	30人	30人		15人	15人		60人	30人	30人		○		2台			31台
東	20人	42人	40人	36人				12人	12人		66人	24人	36人		○		1台		○	15台
北	30人	54人	24人	48人	54人	30人		12人	12人		48人	24人	36人		○		3台		○	16台
西	30人	46人	40人					12人	12人		60人	24人	36人		○		2台		○	13台
中村	30人	30人	40人					12人	12人		54人	24人	36人		○		1台		○	23台
中	24人	36人	30人					16人	16人		66人	24人	36人		○		3台		○	20台
昭和	20人	36人	36人					18人	18人		70人	24人	30人		○	1台	1台		○	24台
瑞穂	24人	36人	30人	36人				16人	16人		60人	24人	36人		○		2台		○	19台
熱田	16人	30人	60人					16人	16人		60人	30人	36人		○		1台	○	○	16台
中川	16人	30人	30人	30人				15人	15人		70人	30人	30人		○		1台			17台
港	36人	34人	30人					10人	10人		54人	24人	36人		○	1台	1台		○	32台
南	24人	36人	36人	36人				16人	16人		60人	24人			○		2台		○	21台
守山	18人	16人	36人	45人	30人	30人	54人	10人	10人	36人	63人	24人	36人	28人	○		1台	○		28台
緑	36人	36人	36人					12人	12人		60人	24人	36人		○		1台	○	○	13台
名東	30人	24人	30人					17人	12人		54人	24人	30人		○		1台	○	○	22台
天白	120人	40人	20人					12人	10人		66人	24人	36人		○	1台	1台		○	29台

(2) 利用料金 (基準額)

(円)

	集会室							和室			視聴覚室	美術室	料理室	和洋裁室	体育室	グランドピアノ	たて型ピアノ	陶芸窯	フクロウの部屋	駐車場
午前	1200							1200			2400	2400	2400	2400	2400	1200	500	1000	-	1回 300
午後	1200							1200			2400	2400	2400	2400	2400	1200	500	1000	-	
夜間	1500							1500			3000	3000	3000	3000	3000	1200	500	1000	-	

2 女性会館

(1) 部屋・設備一覧

(人数は部屋の定員)

会議室			研修室									集会室				和室		生活 科学 研修室	視聴覚 室	文化 活動室	多目的 室	ホール	ピアノ		駐車場
大	中	小	大	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第1	第2	第3	第4	第1	第2	グランド						たて型		
42人	24人	12人	150人	54人	54人	12人	15人	8人	12人	32人	36人	22人	12人	63人	18人	15人	54人	126人	50人	30人	350人	ホール	3台	49台	

(2) 利用料金 (基準額)

(円)

	会議室			研修室								集会室				和室		生活 科学 研修室	視聴 覚 室	文化 活動 室	多目的 室	ホール	ピアノ		駐車場
	大	中	小	大	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第1	第2	第3	第4	第1	第2						グランド	たて型	
午前	1600	800	600	2000	1600	1600	400	400	200	400	800	800	600	400	1600	800	800	1600	2000	1600	1000	1万6千	1200	500	1回 300
午後	1600	800	600	2000	1600	1600	400	400	200	400	800	800	600	400	1600	800	800	1600	2000	1600	1000	1万6千	1200	500	
夜間	2000	1000	800	2800	2000	2000	400	600	400	600	1000	1000	800	400	2000	1000	1000	2000	2800	2000	1200	2万	1200	500	

※使用区分 (生涯学習センター及び女性会館)

午前： 午前9時から午後0時30分まで

午後： 午後1時から午後4時30分まで

夜間： 午後5時から午後9時まで

資料3 令和5年度 生涯学習センター・女性会館 利用実績

館名	人数(人)	件数(件)	利用率(%)
千種生涯学習センター	78,871	5,209	45.6
東生涯学習センター	77,750	6,054	62.0
北生涯学習センター	101,688	6,493	58.6
西生涯学習センター	75,013	5,043	58.9
中村生涯学習センター	72,035	4,482	52.4
中生涯学習センター	69,294	4,873	56.9
昭和生涯学習センター	66,278	4,351	50.8
瑞穂生涯学習センター	70,396	4,745	49.9
熱田生涯学習センター	60,499	3,493	40.8
中川生涯学習センター	50,543	4,194	40.5
港生涯学習センター	44,586	2,798	33.1
南生涯学習センター	71,336	4,398	51.4
守山生涯学習センター	84,362	6,814	43.5
緑生涯学習センター	47,075	3,761	47.9
名東生涯学習センター	55,224	3,550	42.4
天白生涯学習センター	72,395	3,885	45.6
生涯学習センター合計	1,097,345	74,143	48.7
女性会館	216,991	13,442	62.6
総計	1,314,336	87,585	50.4

資料4 令和5年度 生涯学習センター・女性会館 部屋種別利用実績

生涯学習センター部屋種	人数(人)	件数(件)	利用率(%)
集会室	373,236	35,626	60.7
和室	62,357	9,931	31.4
視聴覚室	157,978	7,848	51.2
和洋裁室	1,934	227	21.7
美術室	40,256	3,940	25.7
料理室	18,907	1,354	9.4
体育室	373,205	15,217	95.8
小計	1,027,873	74,143	48.7
館外等	69,472	415	—
全体	1,097,345	74,558	48.7

女性会館 部屋種	人数(人)	件数(件)	利用率(%)
会議室・研修室・集会室	101,388	9,526	65.0
和室	4,268	830	42.5
視聴覚室	19,181	632	64.7
生活科学研修室	6,855	492	50.4
文化活動室	11,024	823	84.5
多目的室	6,726	828	84.7
ホール	25,833	311	32.3
小計	175,275	13,442	62.6
図書資料室、活動コーナー等	41,716	—	—
全体	216,991	13,442	62.6

資料5 令和5年度 生涯学習センターの部屋別利用状況

数字の単位は（件）

			集会室							和室			視聴覚室	和洋裁室	美術室	料理室	体育室
		合計	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第1	第2	第3					
総数	利用件数	74,143	35,626							9,931			7,848	227	3,940	1,354	15,217
	利用率	48.7%	60.7%							31.4%			51.2%	21.7%	25.7%	9.4%	96.0%
千種	利用件数	5,209	823	463	476	395	369			206	160		349		153	42	1,773
	利用率	45.6%	86.5%	48.7%	50.1%	41.5%	38.8%			21.7%	16.8%		36.7%		16.1%	4.4%	93.2%
東	利用件数	6,054	703	758	791	766				469	439		585		444	140	959
	利用率	62.0%	72.0%	77.6%	81.0%	78.4%				48.0%	44.9%		59.9%		45.4%	14.3%	98.2%
北	利用件数	6,493	574	755	663	654	702	691		294	369		479		285	127	900
	利用率	58.6%	62.2%	81.8%	71.8%	70.9%	76.1%	74.9%		31.9%	40.0%		51.9%		30.9%	13.8%	97.5%
西	利用件数	5,043	663	788	772					501	328		646		306	104	935
	利用率	58.9%	69.7%	82.9%	81.2%					52.7%	34.5%		67.9%		32.2%	10.9%	98.3%
中村	利用件数	4,482	595	607	668					362	314		510		334	158	934
	利用率	52.4%	62.6%	63.8%	70.2%					38.1%	33.0%		53.6%		35.1%	16.6%	98.2%
中	利用件数	4,873	681	715	691					429	463		520		292	148	934
	利用率	56.9%	71.6%	75.2%	72.7%					45.1%	48.7%		54.7%		30.7%	15.6%	98.2%
昭和	利用件数	4,351	455	716	658					410	367		576		171	83	915
	利用率	50.8%	47.8%	75.3%	69.2%					43.1%	38.6%		60.6%		18.0%	8.7%	96.2%
瑞穂	利用件数	4,745	503	643	632	619				337	265		485		255	80	926
	利用率	49.9%	52.9%	67.6%	66.5%	65.1%				35.4%	27.9%		51.0%		26.8%	8.4%	97.4%
熱田	利用件数	3,493	336	525	599					257	106		461		173	102	934
	利用率	40.8%	35.3%	55.2%	63.0%					27.0%	11.1%		48.5%		18.2%	10.7%	98.2%
中川	利用件数	4,194	424	556	514	572				281	280		496		162	66	843
	利用率	40.5%	40.6%	53.3%	49.2%	54.8%				26.9%	26.8%		47.5%		15.5%	6.3%	88.9%
港	利用件数	2,798	388	437	415					120	131		364		75	46	822
	利用率	33.1%	40.8%	46.0%	43.6%					12.6%	13.8%		38.3%		7.9%	4.8%	97.2%
南	利用件数	4,398	571	551	654	582				284	211		468		152		925
	利用率	51.4%	60.0%	57.9%	68.8%	61.2%				29.9%	22.2%		49.2%		16.0%		97.3%
守山	利用件数	6,814	443	423	416	460	625	588	873	150	236	532	540	227	283	59	959
	利用率	43.5%	42.4%	40.5%	39.8%	44.1%	59.9%	56.3%	83.6%	14.4%	22.6%	51.0%	51.7%	21.7%	27.1%	5.7%	91.9%
緑	利用件数	3,761	663	563	458					244	205		444		285	83	816
	利用率	47.9%	76.0%	64.6%	52.5%					28.0%	23.5%		50.9%		32.7%	9.5%	93.6%
名東	利用件数	3,550	503	350	596					483	200		373		277	34	734
	利用率	42.4%	52.9%	36.8%	62.7%					50.8%	21.0%		39.2%		29.1%	3.6%	95.2%
天白	利用件数	3,885	541	590	421					305	193		552		293	82	908
	利用率	45.6%	57.2%	62.4%	44.5%					32.2%	20.4%		58.4%		31.0%	8.7%	96.0%

資料6 令和5年度 女性会館の部屋別利用状況

部屋名	利用件数(件)	利用率(%)
大会議室	494	50.6
中会議室	660	67.6
小会議室	543	55.6
大研修室	772	79.0
第1研修室	598	61.2
第2研修室	524	53.6
第3研修室	662	67.8
第4研修室	624	63.9
第5研修室	710	72.7
第6研修室	712	72.9
第7研修室	659	67.5
第1和室	513	52.5
第2和室	317	32.4
生活科学研修室	492	50.4
視聴覚室	632	64.7
文化活動室	823	84.5
第1集会室	600	61.6
第2集会室	612	62.8
第3集会室	646	66.1
第4集会室	710	72.7
多目的室	828	84.7
ホール	311	32.3
全体	13,442	62.6

資料7 ネット・モニターアンケート

アンケート実施者	名古屋市スポーツ市民局広聴課
アンケート実施期間	令和6年7月12日から令和6年7月22日まで
回答方法	ウェブサイト
対象モニター数	500人（市内在住で、名古屋市の年齢構成を反映）
回答数	455人
有効回収率	91.0%
参考ウェブサイト	令和6年度第2回ネット・モニターアンケート（調査結果） https://www.city.nagoya.jp/sportsshimin/page/0000177239.html

資料 7-1 「生涯学習センター等」を知っているか

回答	人数(人)
① 「生涯学習センター」と「女性会館」の両方を知っていた	184
② 「生涯学習センター」のみ知っていた	141
③ 「女性会館」のみ知っていた	11
④ 「生涯学習センター」と「女性会館」のどちらも知らなかった	119
回答者数	455

資料 7-2 （資料 7-1 の質問に①②③と回答した人のうち）
生涯学習センターを利用したことがあるか

回答	人数(人)
① 利用したことがある	190
② 利用したことがない	139
③ わからない	7
回答者数	336

資料 7-3 （資料 7-2 の質問で「②利用したことがない」と回答した人のうち）
「生涯学習センター等」を利用したことがない理由（複数回答）

回答	人数(人)
① どこにあるのか知らない	16
② 家から遠い	30
③ 何をやっているのか分からない	52
④ 興味のあるイベントがない	49
⑤ 利用の仕方や申し込み方が分からない	22
⑥ 申し込みに手間がかかる	15
⑦ 利用したいときに空きがない	7
⑧ 利用したい曜日や時間帯に開館していない	25
⑨ 料金が高い	6
⑩ 入りにくい雰囲気がある	29
⑪ その他	16
回答者数	139

資料 7-4 「生涯学習センター等」にあったら利用したいと思うもの
(選択は3つまで)

回答	人数(人)
① 自習室やワークスペース	212
② カフェや喫茶店	231
③ 図書館の本を読んだり、借りたりできるコーナー	204
④ キッズスペース・ベビー対応施設	84
⑤ トレーニングマシン	150
⑥ キッチンスペース	36
⑦ 音楽スタジオ	54
⑧ 動画配信・録画スタジオ	60
⑨ 特にない	37
⑩ その他	30
回答者数	455

資料8 生涯学習センター利用者アンケート

アンケート実施者	各生涯学習センター指定管理者が館ごとに実施
アンケート実施期間	令和6年7月12日から令和6年9月1日のうち各館が設定した期間（14日間～32日間）
対象者	生涯学習センター利用者、講座受講者
回答方法	調査用紙への記入
実施場所	16区の生涯学習センター
回答数	2,651人

資料 8-1

生涯学習センターを利用している年代

年代	人数(人)
① 80代以上	257
② 70代	756
③ 60代	481
④ 50代	450
⑤ 40代	302
⑥ 30代	193
⑦ 20代	131
⑧ 15～19歳	33
⑨ 中学生	26
⑩ 小学生	9
⑪ 無回答	13
回答者数	2,651

資料 8-2

生涯学習センターの利用頻度

頻度	人数(人)
① ほとんど毎日	13
② 週3回	77
③ 週2回	234
④ 週1回	644
⑤ 月3回	241
⑥ 月2回	590
⑦ 月1回	508
⑧ 年数回	247
⑨ 初めて	92
⑩ 無回答	5
回答者数	2,651

資料 8-3 生涯学習センターを利用する理由（複数回答）

理由	人数(人)
① 自宅・職場・学校等に近い	881
② 交通の便がよい	757
③ 料金が安い	847
④ 設備がよい	314
⑤ 職員対応がよい	354
⑥ 講座受講のため	488
⑦ その他	273
回答者数	2,651

資料 8-4 生涯学習センターにあったら利用したいもの（複数回答）

理由	人数(人)
① 自習室やワークスペース	385
② カフェや喫茶店	1,019
③ 図書館の本を読んだり借りたりできるコーナー	310
④ キッズスペース・ベビー対応施設	93
⑤ トレーニングマシン	281
⑥ キッチンスペース	35
⑦ 音楽スタジオ	191
⑧ 動画配信・録画スタジオ	62
⑨ オンライン予約・オンライン決済	319
⑩ 全館で利用できる無料 Wi-Fi	565
⑪ 特にない	479
⑫ その他	211
回答者数	2,651

資料9 女性会館利用者アンケート

アンケート実施者	女性会館指定管理者
アンケート実施期間	令和 5 年 10 月 23 日から令和 5 年 11 月 30 日まで
対象者	女性会館利用者、講座・セミナー・講演会受講者
回答方法	調査用紙への記入
実施場所	名古屋市女性会館
回答数	560 人

資料 9-1 女性会館を利用している年代

年代	人数(人)
① 80 代以上	33
② 70 代	138
③ 60 代	135
④ 50 代	95
⑤ 40 代	67
⑥ 30 代	38
⑦ 20 代	18
⑧ 10 代	4
⑨ 無回答	32
回答者数	560

資料 9-2 女性会館の利用頻度

頻度	人数(人)
① 週 2 回以上	43
② 週 1 回	117
③ 月 2～3 回	174
④ 月 1 回	114
⑤ 年数回	33
⑥ 不定期	53
⑦ 初めて	21
⑧ 無回答	5
回答者数	560

資料10 名古屋市青少年交流プラザの概要

名 称	名古屋市青少年交流プラザ（愛称：ユースクエア）		
設 置 目 的	社会性及び主体性に富み、人間性豊かで活力あふれる青少年の育成を図る（名古屋市青少年交流プラザ条例(平成 18 年 12 月 27 日条例第 80 号)第 1 条）		
所 在 地	名古屋市北区柳原三丁目 6 番 8 号		
開館年月日	平成 19 年 7 月 7 日		
開 館 時 間	9:00～21:30		
休 館 日	毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその週の最初の平日、小中学校の夏休み期間は臨時開館あり） 12 月 29 日～翌年 1 月 3 日		
建物の構造	SRC 造 地上 3 階建		
敷 地 面 積	2,912.17 m ²		
建物延面積	2,294.97 m ²		
施 設 内 容	部屋名	定員	付属設備など
	ミーティングルーム 1	16 人	
	ミーティングルーム 2	16 人	
	プレイルーム	120 人	舞台、照明、音響設備、ピアノ、キーボード等
	活動室 1	30 人	区画して使用する場合は定員 15 人
	活動室 2	20 人	
	活動室 3	30 人	区画して使用する場合は定員 15 人
	活動室 4	20 人	
	音楽スタジオ 1	10 人	ドラムセット、アンプ、キーボード、マイク等
	音楽スタジオ 2	10 人	
	オープンスペース		
	なごや若者サポートステーション		
	駐車場（31 台）		